

# 「特別支援学級担任スタートブック」に関する研究

## 専門支援課特別支援班

### I 主題設定の理由

共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育システム構築が進められている。同じ場で共に学ぶことを追究するとともに、個別の教育的ニーズに応える柔軟な仕組み、連続性のある多様な学びの場を用意することが求められている。静岡県においても、居住地における交流及び共同学習の充実に向け取り組み始めているなど「多様な学びの場」の充実に努めている。一方、静岡県内の小学校、中学校における特別支援学級の設置学校数、学級数、在籍児童生徒数は年々増加傾向にあり、特別支援学級担任の担い手が不足し、特別支援学級担任の育成は喫緊の課題である。在籍する児童生徒の障害特性や教育的ニーズに応じるため、特別支援学級担任に求められる専門性は多様化しており、初めて特別支援学級の担任になる教員にとって（以下；新任担任と記述）も例外ではない。

本県では、新任担任に学級経営や授業づくりの指針となる「特別支援学級担任のためのハンドブック」（平成 21 年 3 月発行）を提示している。また、新任担任を対象に年 2 回の研修会（以下；新任特担研と記述）を実施している。しかし、学校現場からは、目の前の児童生徒の指導や明日の授業に困っているといった声が聞かれる。

そこで、新任担任が必要としている基礎的内容を時期に合わせて構成し活用できる冊子を作成することで、特別支援学級担任としての実践力を高め、専門性の向上が図られるのではないかと考えた。

### II 研究目的

本研究では、新任担任の実状に合った内容や構成を考え、スタートブックとして作成し、その活用方法について明確にしたいと考える。

特別支援学級の学級づくりや授業づくり、授業改善といった実践に役立つ冊子の活用を促進することにより、新任担任の指導力の向上につながることを目的にする。

### III 研究方法

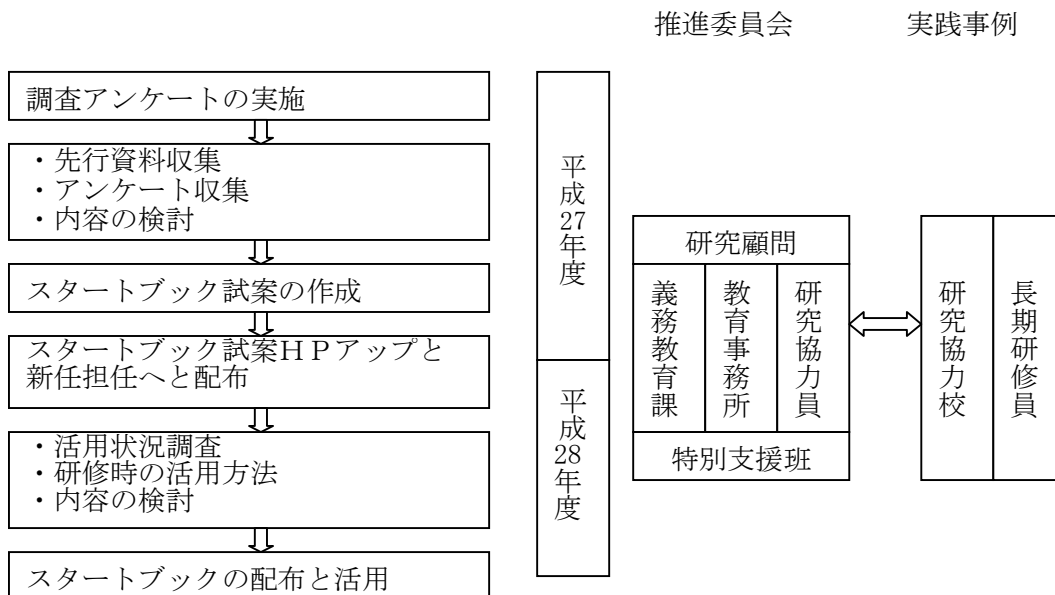
<平成 27 年度>

- 1 新任担任の教員経験年数、課題や必要としている情報、相談相手の有無等の状況を調査するためのアンケートを実施する。
- 2 アンケートの結果を基に、研究協力員や研究協力校の特別支援学級担任の意見を参考にしてスタートブックの内容や構成を検討する。
- 3 スタートブック（試案）を作成する。

<28年度>

- 4 作成したスタートブック(試案)の活用状況や内容等についてアンケートを実施する。
- 5 スタートブック(試案)を改善し、スタートブックを完成させる。

#### IV 研究構想及び推進体制



#### V 研究の内容及び結果

##### 1 静岡県における特別支援学級の実状について

###### (1) 調査目的

スタートブックの内容を検討するために新任担任の教員経験年数や課題、相談相手の有無、所属校の特別支援学級設置数を把握するアンケート調査を行う。

###### (2) 調査対象

平成27年度第1回新任特別支援学級担任・通級指導教室担当者研修会参加71人、平成28年度第1回新任特別支援学級担任・通級指導教室担当者研修会参加者129人

###### (3) 調査項目

- ・教員経験年数と相談相手
- ・課題(平成27年度のみ)

###### (4) 調査方法

質問紙の教員による。

###### (5) 調査の結果

経験年数の有効回答は、それぞれ無回答の2人を除いた、69人と129人である。

###### ア 教員経験年数について

教員の経験年数は、2年から38年までと年数に幅が広いことが分かった。そ

ここで、経験年数を静岡県教職員研修指針に基づき、経験段階で分類することにした。

1年目から5年目までを基礎期、6年目から10年目までを向上期、11年目から18年目までを充実期、19年目から25年目までを発展期、26年目から31年目までを深化期、32年目からを熟練期として表記する。

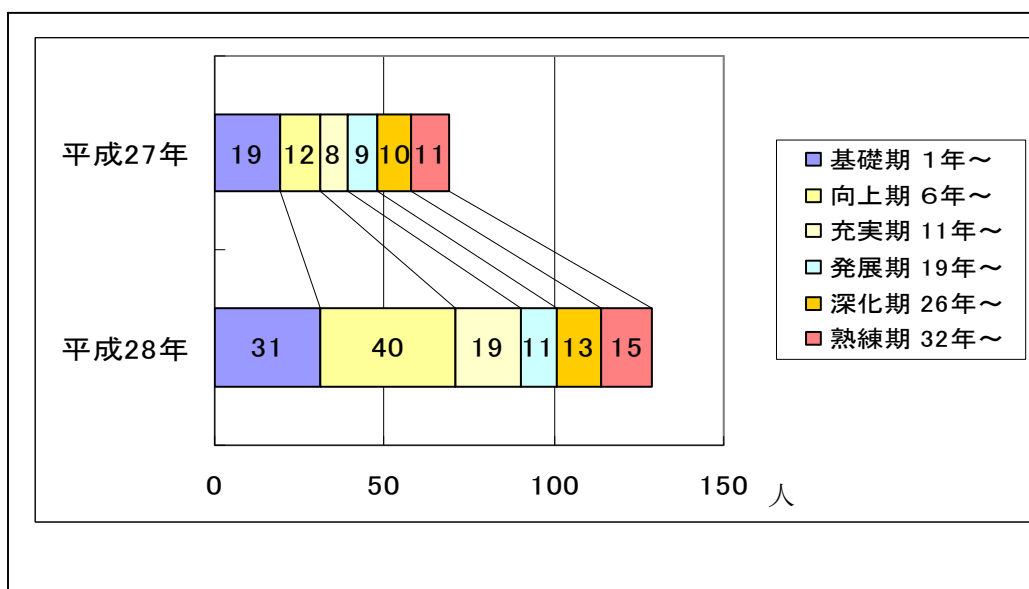


図1 教員の経験年数

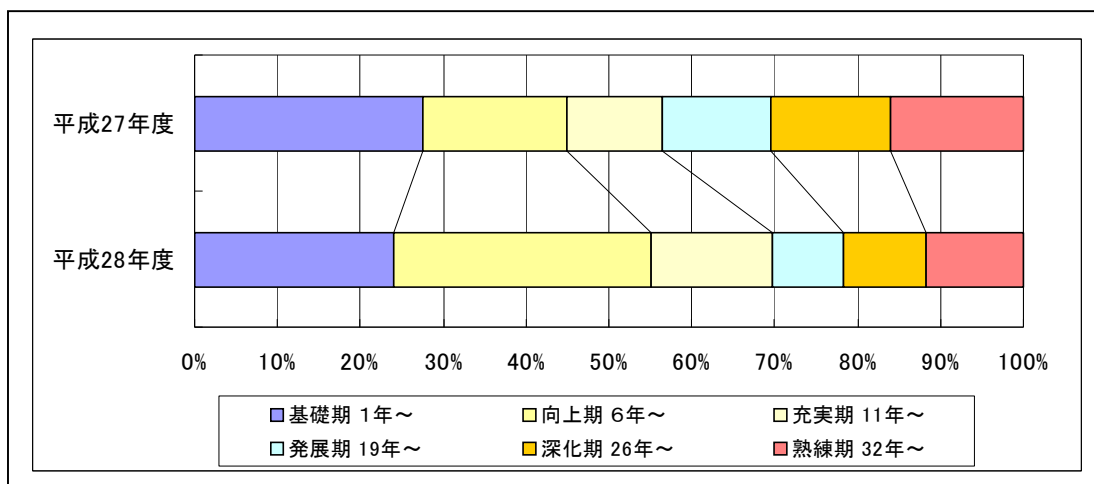


図2 教員の経験年数割合

新任担任の教員経験年数は、基礎期、向上期の教員が特別支援学級担任になる割合が高いことが分かる(図1)。平成27年度と28年度を比較すると、28年度の方が基礎期、発展期、深化期、熟練期の割合が減っている一方、向上期、充実期が増えていることが分かる(図2)。向上期が増えているのは、昨年度含まれてい

なかった教員 5 年経験者が 12 人（約 1 割）の教員が含まれていることが理由の一つとして推測される。

#### イ 新任担任が所属する学校の特別支援学級設置数

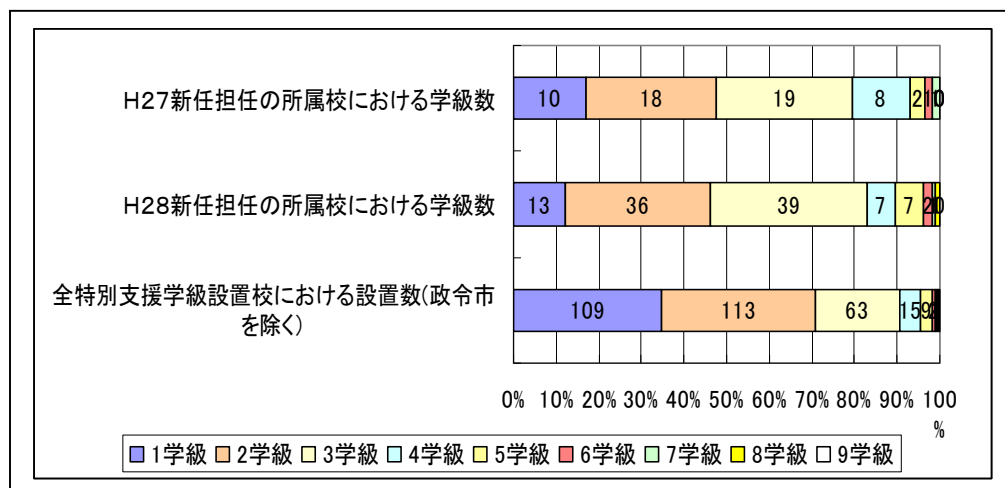


図 3 新任担任の所属校の特別支援学級設置数

新任担任の所属校の特別支援学級設置数は、3 学級、2 学級設置という順に多いことが分かる。平成 28 年度の静東、静西両教育事務所管内での設置学級数は 2 学級、1 学級の順に多いことが分かる。このことから、複数設置校に新任担任の割合が高く、周囲の人たちと相談しながら、教育活動に取り組めるよう配慮していることがうかがえる(図 3)。

そして、1 学級設置校のうち、1 割が新任担任であることも明らかになった。

#### ウ 相談相手について

相談できる教職員等について、管理職、教務主任、他の特別支援学級担任、その他と選択肢をあげ、複数回答可で尋ねた。その結果、平成 27 年度は 71 人中 3 人は無回答であった。68 人の回答は表 1 のとおりである。

表 1 平成 27 年度 新任担任の相談相手

他の特別支援学級担任	64 人	(その他の内訳) 前任者、協力学級担任、 在籍学級担任、同じ学年の教員、支援員、 教科で入る教員、通級指導教室担当、 市の指導主事、特別支援教育コーディネーター
管理職	38 人	
教務主任	34 人	
その他	18 人	

次に、平成 27 年度の結果を基に、平成 28 年度の新任担任に、同様に回答してもらった。

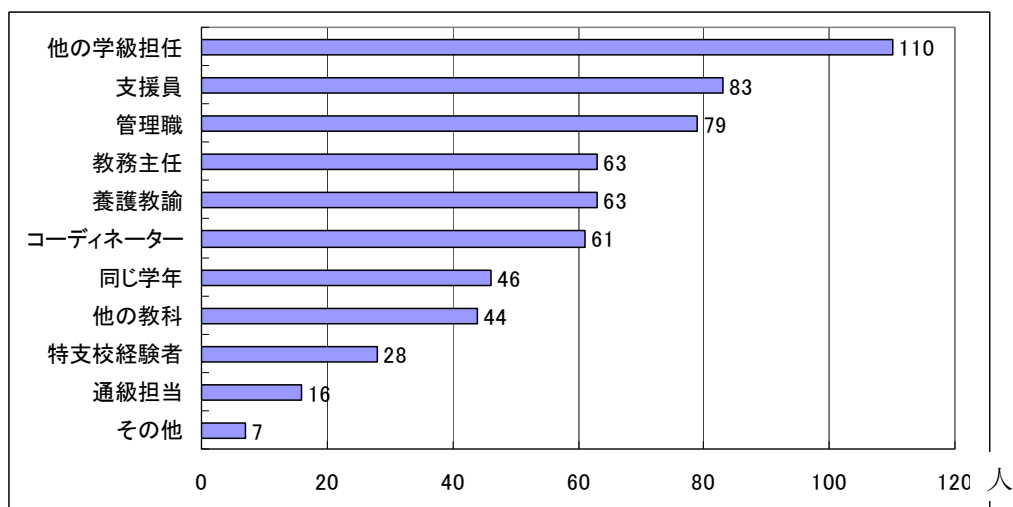


図4 平成28年度 新任担任の相談相手 n=131人（複数回答可）

その結果から、平成28年度も他の特別支援学級担任、管理職、教務主任が多いことが分かる（図4）。特に他の特別支援学級担任には、平成27、28年度とも85%程度の人が相談している。さらに、支援員、養護教諭、コーディネーターの回答数が増えている。このことから、ほとんどの新任担任が特別支援学級担任、支援員、管理職等に相談していることが分かる。

国立特別支援教育総合研究所（2014）が実施、報告した「知的障害特別支援学級（小・中）の担任が指導上抱える困難やその対策に関する全国調査」では、相談内容によって、相談相手を他の特別支援学級担任、管理職、資料から読み取るなどと分けているとの結果が出ていることから、本調査からも同様のことが推測できる。

## エ 新任担任の抱える課題

新任担任の年度当初の悩みや不安感を把握するために、竹林地（2014）を基に、質問紙を作成した。項目は表2のとおりである。また、詳細を知るために自由記述による調査も実施した。

表2 困っていることや分からないこと

週日課	41人	指導要録	15人
個別の教育支援計画	40人	就学奨励費	12人
個別の指導計画	40人	学級懇談会	10人
教科書	35人	出席簿	8人
年間指導計画	32人	通学路・通学方法	8人
交流及び共同学習	27人	届出書類	6人
教室の整理整頓	24人	学級通信	5人

n=71人（複数回答あり）

上位5つは週日課、個別の教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画など計画作成に関する内容である。

自由記述は、テキストマイニングのソフトウェア Kh coder を用い、語句の出現回数を算出後、共起ネットワークを作成し分析した(図5)。

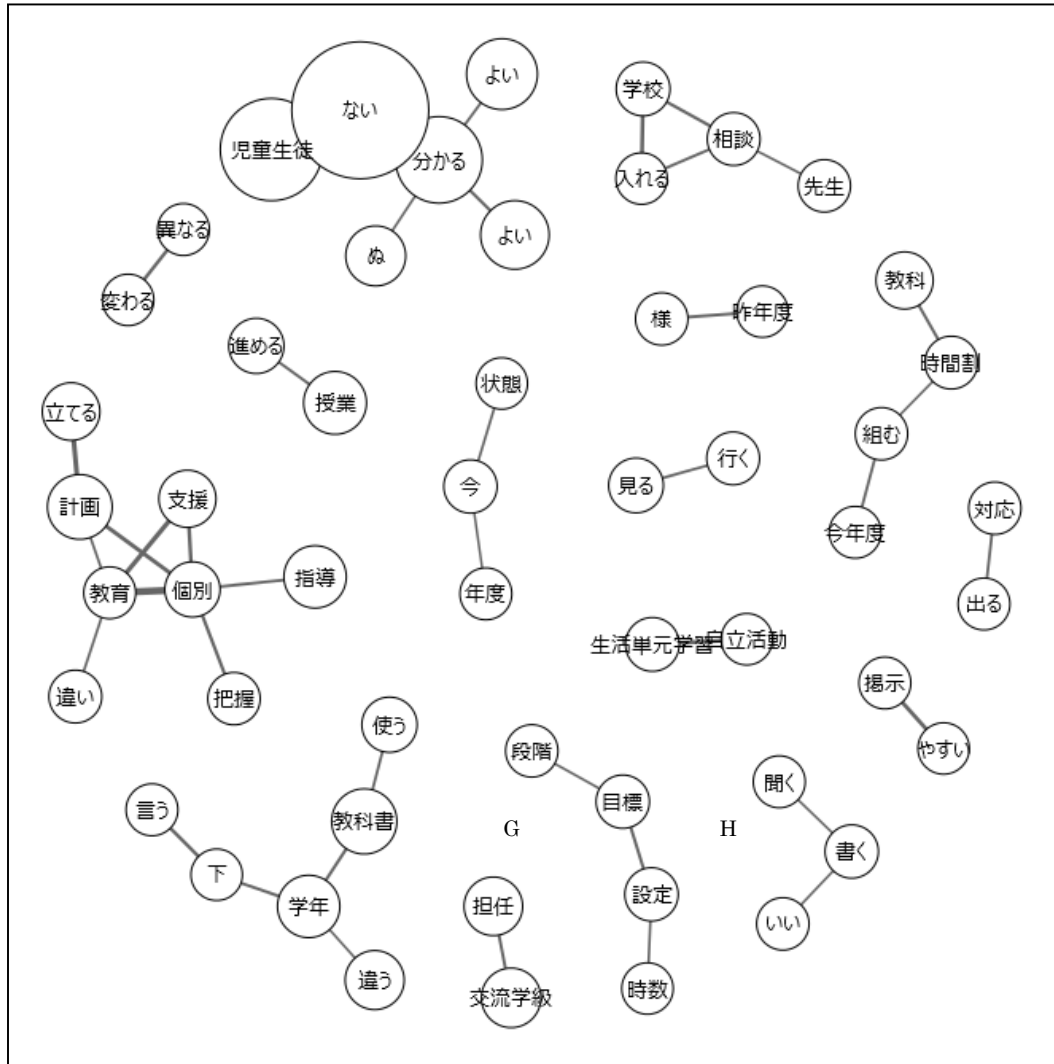


図5 困ったことや分からなかったことの共起ネット

あわせて、自由記述の形態素解析による分析を試みた。分析は、KH Coder ver. 2.00f を用いた。対象とした自由記述は総数 7,747 語、1,042 種類の語を分析対象とした。自由記述中の句点までを 1 文書とし、380 文書を構成されていた。

これらの抽出語の内の出現パターンの似通った語、すなわち共起の強い語について確かめた。その中で 5 回以上出現回数があり、Jaccard 係数が 0.15 以上であ

る 54 種類の話、41 の共起関係を抽出した。

その結果、「児童生徒一分からない」「個別一教育」「個別一計画」「計画一立てる」「生活単元学習一自立活動」など、共起関係の強い語から自由記述の意味の傾向を読み取ることができると考える。

### オ 特別支援学級の実状についてのまとめ

2年間の調査を通して、基礎期や向上期の教員経験年数の浅い新任担任が増えていることが分かった。学級数の増加とともに、今後も経験年数の浅い教員の任用が続くことが予想される。また、新任担任は同じ学校の特別支援学級担任や支援員、管理職や教務主任等に相談をしながら学級経営や授業づくりを行っていることが分かった。しかし、自由記述の文を見てみると児童生徒の実態が分からないことから一人一人の学習課題を設定すること、教員自身が経験したことのない領域や指導形態について、どのように授業を行ってよいのかが分からないことなどに不安を抱いている様子が分かった。そのため、日課表や年間指導計画、個別の支援計画や個別の指導計画などを作成することに難しさを感じているのではないかと推測される。さらに、交流及び共同学習においては、交流学級担任との連絡調整等が難しいと感じていることも分かった。

## 2 スタートブックの内容の検討及び試案の作成

### (1) スタートブックの内容の検討と試案の作成

研究協力員や協力校の教員から意見を聴取し、スタートブックの内容を検討した。

スタートブックは、新任担任が4月に安心して学級経営をスタートさせる上で求められるものであることを共通理解した。また、児童生徒個々の発達段階に合わせた指導をするという教員の意識の転換が重要であり、そのためには実態把握、実態差への対応が必要であること、生活単元学習や作業学習など領域・教科を合わせた指導や自立活動の説明、知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程が異なることなどの知識も必要であることが確認された。さらに、個々の実態に応じた指導をどのように行ったらよいのか困っている実状を受け、複式学級の児童生徒を指導する方法や実践例の紹介なども必要であるなどの意見が出された。

このような検討と並行して、研究校協力員や研究協力校へ情報や資料等の提供を依頼し、試案を作成した。

### (2) スタートブックの構成について

静岡県広報課の事業である「デザインアドバイザー」を活用し、新任担任に読みやすいページの構成や字体などに対するアドバイスをもらうことで、読みやすさ、見やすさを意識したページの構成にした。

### 3 スタートブックの活用状況について

#### (1) スタートブック(試案)の配布について

平成27年度末に、作成したスタートブック(試案)をセンターHPに公開するとともに、活用のための広報紙を配布した。そして、28年度の4月末に行われた新任特担研において全ての新任担任へとスタートブック(試案)を配布した。

#### (2) スタートブック(試案)活用に関する調査結果について

4月末の新任特担研、8月に当センターで実施した希望研修「特別支援学級の授業づくり」の際に、スタートブック(試案)の内容一覧を提示し、「読んだ」「役立った」のアンケートを実施した。

年度始めに役立つスタートブックを作成するという意図があったが、4月末、8月のアンケート結果から、内容項目「特別支援学級の教室環境」「特別支援学級 1年間の学級事務 この時期にこれをやっておこう!」、自閉症・情緒障害特別支援学級を対象とした項目などが特に多く、回答者の2/3の教員が役立ったと答えている(図6、7)。年度当初に見るとよいとした他の項目についても、ほとんどの項目が対象障害種の教員の半数及び1/3以上の方が役立ったとの回答が得られた(図6、8)。

竹林地(2014)では特別支援学級担任経験1年目と2年目の求める情報の内容が異なるとの報告もあり、時期や教員の今までの経験によって求めるものが異なると考えられる。年度当初に必要な内容が高い割合で役だったと答えられているということは時期と経験等に合った内容であると言える。

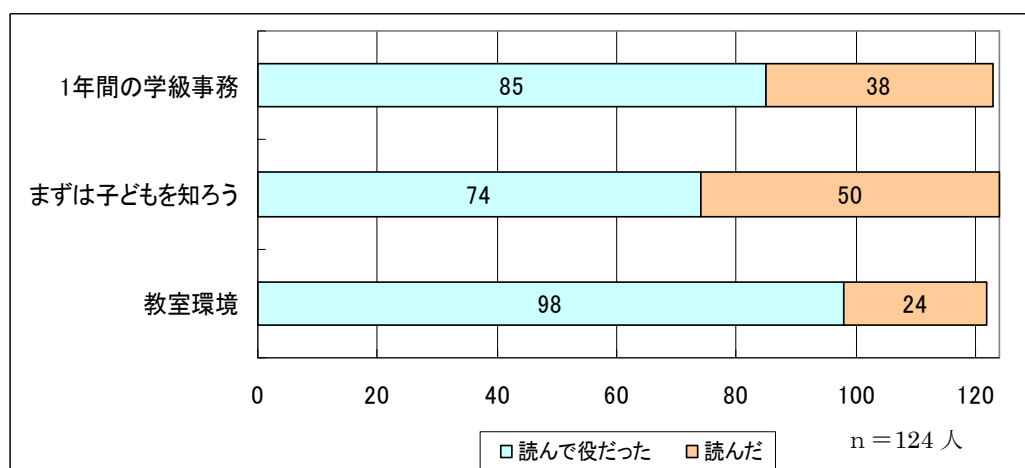


図6 年度当初に読むとよい項目(全学級)



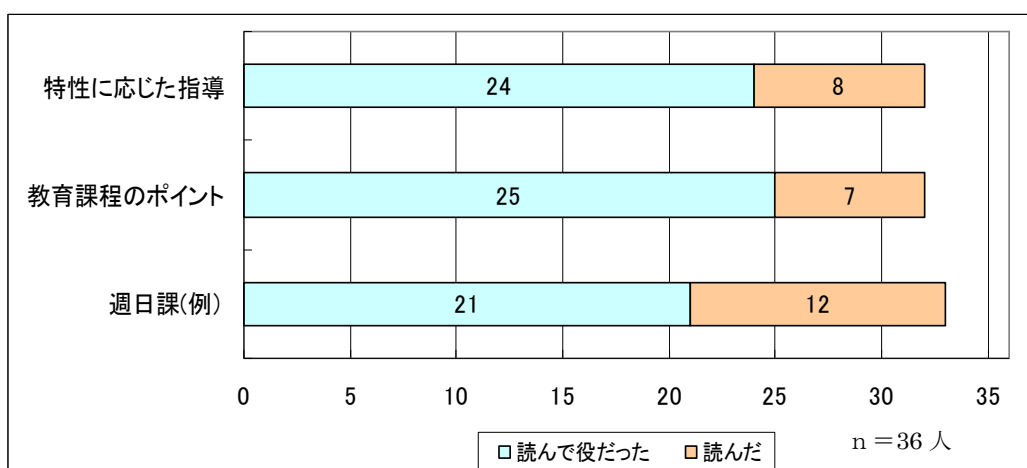


図7 年度当初に読むとよい項目（自閉症・情緒障害特別支援学級）

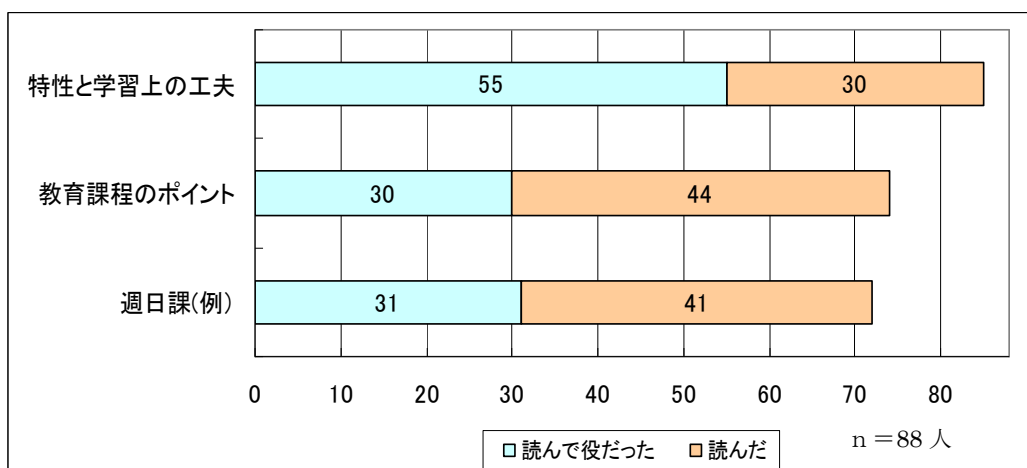


図8 年度当初に読むとよい項目（知的障害特別支援学級）

### (3) 研修会でのスタートブック（試案）の活用について

当センターにおいて希望研修「特別支援学級の授業づくり」を静東、静西と2日間に分け、実施した。この研修は、授業づくりに特化した内容で新任特担研の継続研修として新任担任が受講する(表3)。そして、指導案づくりを事前課題とした。事前課題である指導案づくりにおいて、スタートブック（試案）に掲載している作成のポイントや指導案例を見たり、生活単元学習の説明を参考にしたりして作成した教員もいた。指導案の検討を行った際は、試案を開き必要な情報を確認する姿や、グループワークの中で「社会自立」について話題になった際、皆で同じページを開き確認している姿も見られた(図9)。

新任担任がスタートブックを活用し、自分で問題解決するだけでなく、研修会や日頃の指導の中で他の特別支援学級担任と情報の共有を図る際に、活用することも有効であると思われる。

表3 新任担任を対象とした研修会（平成28年度）

実施時期	名称	内容
4月末	第1回新任特担研	指導主事による「学級経営」及び「授業づくり」等の講義
6月中	第2回新任特担研	先輩教員の授業参観及びグループワーク
8月上旬	希望研修「学級の授業づくり」	先輩教員の実践発表及び今後実施予定の指導案検討

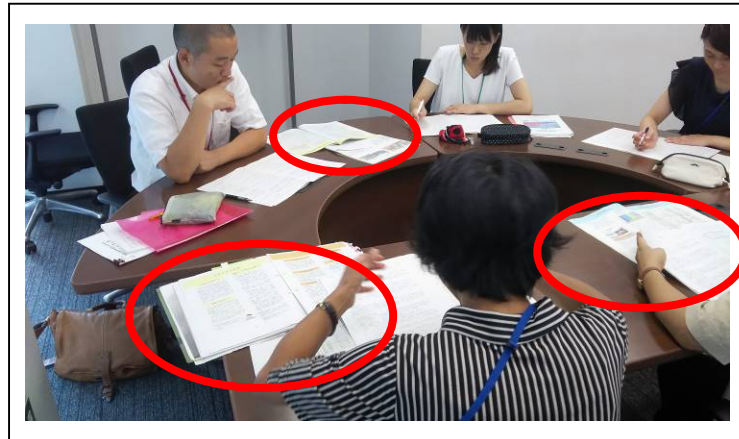


図9 スタートブックの活用場面

#### (4) スタートブック(試案)の活用の効果

スタートブックを読んだり、研修会で学ぶ機会を得たりすることによる、新任担任の学級経営や授業づくりに対する意識の変化を調査した。

研究協力校の新任担任の協力を得て、4月〔1〕、4月末の新任特担研Ⅰ期から6月の新任特担研Ⅱ期まで〔2〕、Ⅱ期終了後から8月の研修「特別支援学級の授業づくり」まで〔3〕、「特別支援学級の授業づくり」から研究協力校訪問の10月末から12月まで〔4〕の期間の4期に分け、意識したことを記入してもらった。その結果を図10にまとめると、年度当初は学級づくりや授業づくりが中心となっているが、4期には児童生徒の障害特性を意識したり、学校全体の中で特別支援学級の位置付けを考えたりなど、学級だけではなく周囲の物事へと視野を広げながら指導していることが分かり、各研修会と併用してスタートブックで学ぶことが効果的であると思われる。

1	2	3	4
<p>年度当初から 新任特担任Ⅰ期まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども理解 子どもの能力 子どものよいところ 子どもの様子 (NGワード)</li> <li>○授業づくり 能力差に応じる 課題・やりがい 何を育てたらよいか 板書、教材</li> <li>○環境整備 掲示物 座席・ロッカー 刺激少なく、動きやすい</li> <li>○保護者連携 信頼関係 成長や課題の共有 就学支援</li> </ul>	<p>新任特担任Ⅰ期から 新任特担任Ⅱ期まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○能力差に応じる ために授業の工夫</li> <li>渡りの指導等 ・授業の構造化 ・ルールの設定 ・課題の設定・自立 課題</li> <li>○支援員との連携</li> </ul>	<p>新任特担任Ⅱ期から 新任特担任Ⅲ期まで (希望研修:特別支援 学級の授業づくりまで)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個に応じた課題 つけたい力の明確化</li> <li>○自立活動の視点 情緒の安定 人間関係づくり 他者理解 微細運動</li> <li>○医療機関との連携</li> </ul>	<p>新任特担任Ⅲ期から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの 具体的な支援を</li> <li>○周りの理解 学校全体での子ども 理解を 地域の特別支援学級の 情報収集を 進路について</li> </ul>

図 10 新任担任が指導上意識したこと

## VI まとめ

2年間の調査結果から、新任担任が「求めている情報」及び研究協力員や協力校の教員から「担任として知っていてほしい情報」等もまとめ、スタートブックを作成した。

今後の活用方法として、日常業務を進める中で読んで知識を得たり、他の特別支援学級の教員に相談するときなどに情報を共有したりするための資料として活用してもらいたい。研究協力校の教員からは、「全ての特別支援学級にスタートブックを置き、自校の特色や工夫などを書き込むことで、自校としてのスタートブックとして活用できる」との意見をいただいた。

さらに、既存の「特別支援学級担任のためのハンドブック」「ユニバーサルデザイン」のリーフレットなどと併せて学級運営や授業改善に活用されることにより、特別支援学級担任の資質向上に資することを期待する。

### 【参考文献】

- 国立特別支援教育総合研究所(2014): 知的障害特別支援学級(小・中)の担任が指導上抱える困難やその対応策に関する全国調査 ―研修、支援体制からの考察― (平成24年度～25年度)
- 竹林地毅(2014): 小学校特別支援学級担任者の専門性向上に関する調査. 広島大学、特別支援教育実践センター研究紀要, 第12号, 75-82

### 【研究組織】

研究顧問	岡本 康哉 (国立大学法人静岡大学教職大学院特任教授)
研究協力員	福井 孝子 (義務教育課指導主事) 平成 27 年度
	鈴木 宏征 (義務教育課主任指導主事) 平成 28 年度
	田中 亮輔 (静岡教育事務所地域支援課指導主事)
	田中 正信 (静岡教育事務所地域支援課指導主事)
	小川 容子 (沼津市立門池小学校教諭)
	田中美哉子 (掛川市立大坂小学校教諭)
	研究協力校
資料提供校	長泉町立南小学校 藤枝市立葉梨小学校 牧之原市立地頭方小学校 磐田市立長野小学校 湖西市立岡崎中学校

### 【担当所員】

静岡県総合教育センター

参事兼専門支援課長	筒井昌博
特別支援班長兼主任指導主事	松本高治
特別支援班指導主事	和久田欣慈
	齊藤 望 平成 28 年度
	中里 千冬 平成 27 年度
	柘植 美文
	山崎かおる 平成 27 年度
	松本 太郎
特別支援班特任教官	小林 雅樹 平成 28 年度
	粕谷 泰以
特別支援班長期研修員	横山 孝子
	亀 壮晴 平成 27 年度
	池田 倫子 平成 28 年度